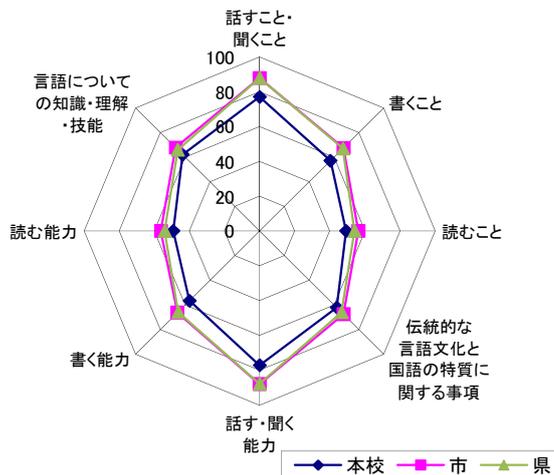


宇都宮市立岡本小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	77.1	87.9	87.8
	書くこと	57.1	67.6	67.1
	読むこと	49.3	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.2	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	77.1	87.9	87.8
	書く能力	56.6	66.3	65.7
	読む能力	49.3	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	62.1	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

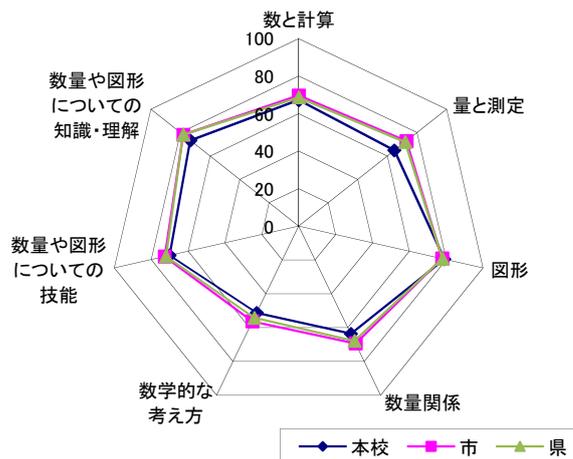
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は77.1%で、県平均より10.7ポイント低い。互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くこと、話の中心に気を付けて聞くこと、話し方の工夫に気を付けて聞くこと、について理解の定着に課題が見られる。	・国語の授業だけでなく、学級活動や会話科の言葉の学習などでも、言語活動を重視したコミュニケーション能力の育成を図る。
書くこと	●領域の平均正答率は57.1%で、県平均より10ポイント低い。招待する手紙の形式を理解し、あいさつの言葉を書く設問の正答率は56.9%で県平均より14.5%低い。また、招待する手紙を、敬体で書く設問については、70.6%で県平均より11.3%低い。手紙の形式に関する理解と書き方の知識の定着に課題が見られる。	・授業において、相手や目的に応じて必要な事柄を抜かさずに順序立てて書くこと、表書きや後付けの正しい位置や形式など、手紙の書き方の基本的な知識を押さえて指導する。 ・日常生活での敬語の指導を充実させ、さらに学校行事の案内をする手紙や地域での体験学習の指導を依頼する手紙を書く際に、一人一人の手紙を書く能力に応じて指導や支援をしていく。
読むこと	○物語の内容の理解については、県平均とほぼ同じ正答率だった。文学的な文章の理解に一定の成果が見られた。 ●領域全体の平均正答率は49.3%で、県平均より4.8ポイント低い。特に、説明文を読んで目的や必要に応じて文章の内容を読み取ることに課題が見られる。また、図と話し合いの内容を関連付けることについても、与えられた情報から資料の特徴を読み取ることが難しく、課題が見られる。	・授業において、文と文のつながりに注意して文章を読ませたり、中心となる語をとらえさせたりする指導をしていく。 ・児童は、好んで物語を読んでいるが、物語以外の分類の本を読むことは少ないので、いろいろな種類の本を読む機会を設け、目的や必要に応じて文章を読んだり、与えられた情報を読み取ったりすることができよう指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み・書きについては、県平均と同程度の正答率であった。特に第3学年配当漢字の「平等」の読み方、「定める」を書くことについては、県平均より高かった。 ●第2学年配当漢字の「遠足」は県平均より13.3%低く、3年生の配当漢字だけでなく、2年生の配当漢字も復習する必要がある。また、言葉の学習については、反対の意味の言葉の理解と国語辞典の使い方が特に県平均正答率より低かった。	・文章を書く際には、既習漢字を適切に意識して使うよう指導し、漢字辞典や国語辞典で熟語や例文の練習を継続して取り入れるようにする。 ・他教科の調べ学習や日常生活でも積極的に辞書を活用できるように学習環境を整備する。

宇都宮市立岡本小学校第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	69.6	68.7
	量と測定	64.7	72.8	72.0
	図形	78.9	77.8	78.0
	数量関係	63.6	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	51.3	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	70.1	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	73.3	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

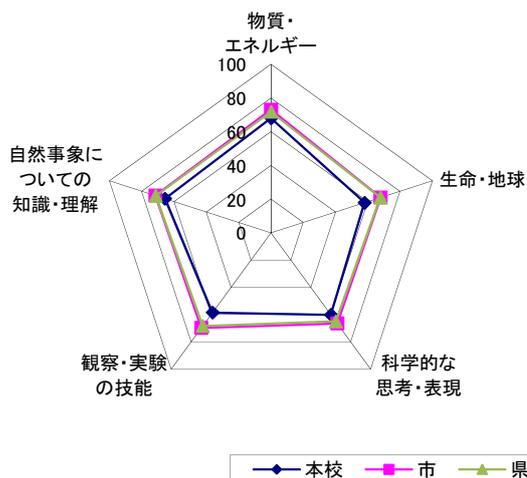
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○同分母の真分数＋真分数の計算は、県平均正答率より6.5ポイント高く、分子が1の分数が何個で1になるか理解している設問でも7.7ポイント高かった。分数の意味と表し方の理解に一定の成果が見られる。</p> <p>●3位数×2位数＝5位数のかけ算と小数のしくみを理解しているかを問う設問では、正答率が低かった。</p>	<p>・授業終末における適用問題を充実させたり、「宮っ子学カステップアップシート」を活用するなどして計算練習の機会を多く設け、児童のつまづきを把握しながら一人一人の状況に応じた指導や支援をしていく。</p>
量と測定	<p>●時刻と時間についての平均正答率が6.1ポイント県平均正答率より低かった。特に、時間の分と秒の単位の関係や電車とバスの乗車時間を求めて比較することの設問で正答率が低かった。また、長さ・重さについての正答率も低かった。</p>	<p>・長さのkmとm、重さのkgとg、時間の分と秒、といった単位の関係について練習問題を充実させ、復習する機会を多く設け、児童のつまづきを把握しながら指導していく。</p>
図形	<p>○正三角形の作図をする設問では、82.4%の正答率で、県平均正答率より8.2ポイント高く、二等辺三角形の作図をする設問では、86.3%の正答率で、県平均正答率より3ポイント高かった。このことから、作図をすることについては、一定の成果が見られる。</p> <p>●円の直径、球の半径と直径についての理解は県平均正答率より低かった。</p>	<p>・円や球の学習では、作業的な活動を取り入れたり、日常生活における経験と関連付けたりして児童の気付きを引き出す学習を行う。</p>
数量関係	<p>●領域の正答率は63.6パーセントと県平均正答率より4.2ポイント低かった。文章問題を解くことや棒グラフから分かることを読み取ることに課題がある。</p>	<p>・わり算の文章問題では、わり算の文章問題を表した図を読み取り、式と結び付けて考える問題を取り入れる。</p> <p>・算数の授業だけでなく、社会など他教科でも棒グラフを読み取る経験を増やし、提示された条件に該当する項目を示したり、数量の違いを読み取ったりする活動をし、日常生活における経験と関連付けて指導する。</p>

宇都宮市立岡本小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.0	73.1	71.8
	生命・地球	58.0	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	60.1	66.5	65.0
	観察・実験の技能	58.6	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	65.6	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

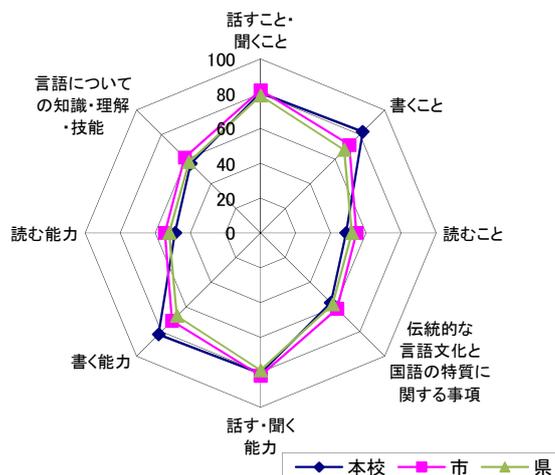
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○ソケットを使わない場合の、正しい導線の接続の仕方については、正答率が66.7%で県平均正答率より10.1ポイント高かった。</p> <p>●領域の平均正答率は68.0%で、県平均より3.8ポイント低い。物の重さについて条件を変えたときのてんびんのつり合いを考える設問、磁石の性質を問う設問、回路の意味を問う設問の正答率が特に低かった。</p>	<p>・物の形を変えるなど、条件を変えたときのてんびんのつりあいやはかりを正しく使うことについての知識を定着させるため、実験をして視覚的に理解させるようにする。</p> <p>・磁石の性質に関する知識の定着のためには、様々な方法で繰り返し実験し、どの方法で行っても、自由に動くようにしてある磁石は、N極が北、S極が南の方角を指すことをとらえられるようにする。</p>
生命・地球	<p>●領域の平均正答率は58.0%で、県平均より9.8ポイント低い。「身近な自然の観察」の設問では、虫眼鏡の使い方、身の回りの生物の生息場所についての正答率が低く、「太陽と地面のようす」についての設問では、太陽と影の動きの関係や地面の温度の測り方の正答率が低かった。</p>	<p>・身の回りの生物の生息場所についての学習では、児童の野外での発見や気づきを学習に生かすよう、観察を多く取り入れる。その際、細かい部分を拡大する虫眼鏡を使用し、観察したことをノートや観察カードに文と図で記録させる。</p> <p>・太陽と地面のようすは、実際に校庭で影の動きを調べたり、日なたと日陰の地面の湿り具合を調べたりする活動を、休み時間や家庭など日常生活と関連させて経験的に理解できるようにする。温度計の正しい測り方は、室温、気温、水温、地温など様々な場面で温度計の使い方に慣れる経験をさせていく。</p>

宇都宮市立岡本小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.6	82.0	78.9
	書くこと	82.3	71.5	67.4
	読むこと	48.8	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.6	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	80.6	82.0	78.9
	書く能力	82.3	71.5	67.4
	読む能力	48.8	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	56.4	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

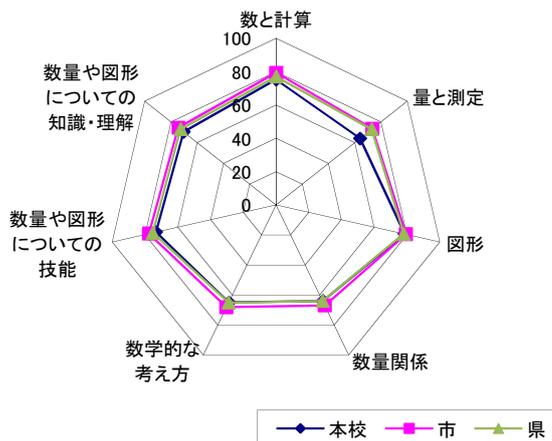
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の中心に気をつけて聞くことができ、平均正答率が80.6%であった。市には及ばないが、県の数値をやや上回っていた。</p> <p>●県や市も同傾向ではあるが、「話すこと・聞くこと」の中でも「司会者の話し合いの進め方の工夫に付いての理解」が、60.4と低めであった。</p>	<p>・今後もグループでの話し合い活動を多く取り上げ、少人数の中で、必ず一人一人の児童が聞く話す活動に参加する状況での学習活動を行っていく。</p> <p>・話し合い活動の司会の経験不足を補えるよう、いろいろな話し合い活動で、司会を交代制にしていく。</p>
書くこと	<p>○自分の意見を明確に、指定された長さで、適切な表現を用いて理由添えて書くことができおり、平均正答率が82.3%であった。市や県の数値を高く上回っていた。</p> <p>●2段落構成で文を書くが74.0%と「書くこと」の中では低めの正答率であった。</p>	<p>・文章構成を考えさせ、段落のまとまりを意識させた作文指導を行っていく。</p>
読むこと	<p>○説明文の内容の理解は県の平均正答率をやや上回っていた。</p> <p>●物語の内容の理解は市や県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・語彙が少なく、全体的に文章を読み取る力が低めなので、日常的に言葉を説明したり、調べさせたりする機会を多くし、語彙を増やしていく。</p> <p>・物語本の読書への興味付けを行い、叙述を基に、場面の移り変わりを読み取ったり、登場人物の気持ちを想像しながら読んだりすることの面白さが感じられるように支援していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字辞典の使い方を約8割の児童が理解している。</p> <p>○7割台で十分とは言えないが、4年配当漢字を県の平均正答率程度には読めていた。</p> <p>●3,4年の配当漢字を3割書けていない。</p> <p>●修飾語や慣用句の使い方の理解が県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・音読をしっかりと行わせ、修飾語や慣用句などを目と耳から入れて増やしていく。</p> <p>・漢字練習・ミニテストを繰り返し行い、学習の定着をはかる。</p>

宇都宮市立岡本小学校第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.3	79.3	77.1
	量と測定	64.1	73.4	72.9
	図形	78.6	79.4	78.0
	数量関係	64.1	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	65.0	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	73.4	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	70.4	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

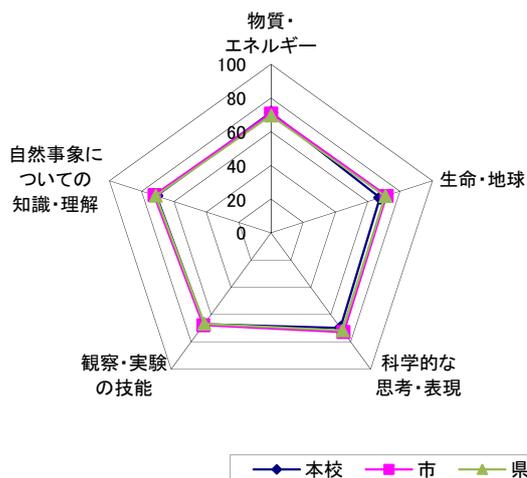
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○3位数÷2位数=2位数(あまりあり)の計算と1/10の位までの小数×整数の計算が、市や県の平均正答率を上回ることであった。</p> <p>●3位数×2位数=5位数(被乗数に空位あり)の計算と1/10の位までの小数÷整数=1/10の位までの小数の計算が、県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・全体的に市や県の平均正答率をやや下回るものが多く、特に被乗に空位のあるかけ算、小数のわり算ができていないことから、位をきちんと押さえた計算の仕方を学ばせ、習熟を図る。</p>
量と測定	<p>○十分とは言えないが、身近にあるものの面積を推察することは7割程度ができていた。</p> <p>●面積の単位m^2とcm^2の単位の関係の理解が2割しかできていない。</p> <p>●長方形の面積を求めたり、角の大きさの見当をつけることが8割程度はできているが、市や県の平均正答率から大きく下回っていた。</p>	<p>・面積や角の大きさなど量と測定の学習では、具体物を操作して、量や角度など、実際の大きさのイメージを持たせながら学習を進め、理解を図る。面積の単位についても十分に復習する。</p>
図形	<p>○四角形・立体の図形の学習に関しては、市や県の正答率を上回る設問も複数あり、8割以上の正答率で、理解ができていた。</p>	<p>・垂直、平行、展開図などの関係の理解をさらに定着させていけるよう、具体物操作を十分に行っていく。</p>
数量関係	<p>○計算のきまり・変わり方調べと折れ線グラフと表の見方がよくできており、市や県の平均正答率をやや上回った。</p> <p>●棒グラフと折れ線グラフを比べて変わり方の違いから2つのグラフが同じではない説明をすることができず、19、8%の正答率であった。</p>	<p>・応用的な問題でも、あきらめず、習ったことを生かして、丁寧に取り組む姿勢を身に付けさせていく。</p>

宇都宮市立岡本小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.5	70.8	69.5
	生命・地球	67.6	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	69.7	72.8	71.7
	観察・実験の技能	67.1	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	71.0	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「空気と水の性質」「金属、水、空気と温度」の知識に関しては、平均7から8割以上の正答率を挙げているものが多かった。</p> <p>●「金属、水、空気と温度」の水の固体・気体時の特徴についての知識は5から6割の正答率で低めであった。</p> <p>●「電池のはたらき」の直列つなぎが3割程度の正答率であった。</p>	<p>・水が沸騰すると水蒸気という気体になることや、水が氷になる体積が増えるなど、身近な生活の中での経験を知識に生かすなど、学習と生活を結びつけた学びができるようにする。</p> <p>・電池の直列つなぎなども実体験が不足している結果と考えられるので、生活と結びつけた学習を目指す。</p>
生命・地球	<p>○「天気の様子」で気温の変化を折れ線グラフにすることは9割を超えてできた。</p> <p>○「季節と生物」の設問の、身の回りの生き物や植物の様子に関する知識的な者については正答率が高かった。</p> <p>●「人の体のつくりと運動」の設問は、筋肉に関する知識的なもの、関節に関する思考的なものともに正答率が2から3割台と低い。</p> <p>●「月と星」の設問の月の動き方や月の形の変化についての知識的なものが低い。</p>	<p>・「人の体」そのものについて、関心をもたせ、理科にとどまらず、体育や総合的な学習などでもとりあげて、自分の体を知り、健康な体をつくりをおこなうことの大切さを知らせていく。</p> <p>・「月と星」に関しては、満月や月食などの機会を捉えて、月の動きや形の変化の仕方について、ふれる機会を設け、実際の現象をとらえながら復習を行っていく。</p>

宇都宮市立岡本小学校第4学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○宿題をすることについては、96.1%の児童が大切だと回答しており、県平均より0.4ポイント高かった。宿題の内容が「やりたくなる内容だ」「勉強していておもしろい、楽しいと思う」という質問に対しては10ポイント程度低いのだが、「宿題は自分のためになっている」という質問に対して2.2ポイント高いことから、学校や家で勉強することの大切さはよく理解しているとうかがえる。

○毎日、朝食を食べてきている児童は94.1%以上で、県平均の87.3%より6.8%上回っている。ほとんどの児童がきちんと朝食をとってから学校へ来ていることから、朝については規則正しく健康的な生活をしている様子がうかがえる。

○「学校の準備は自分でしている」という質問への回答は、県平均より3ポイント高い98.0%で、学校の準備や身の回りの片付けは自分でしているとほとんどの児童が答えていた。

●県平均と比べて低さが目立った質問の項目は、「家で、学校の授業の予習をしている39.2%」県平均より-15ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている45.1%」県平均より-13.9ポイント、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている41.2%」県平均より-23.6ポイントだった。これらの回答から、家庭での学習時間が不足していることがうかがえる。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる60.8%」という質問に対しても、県平均より-9.3ポイントとなっており、学習に積極的に取り組ませる工夫が課題となっている。

●「友だちと話し合うとき、友だちの話しや意見を最後まで聞くことができる」という質問では、76.5%で県平均の91.5%より15ポイント低くなっていた。また、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」という質問では、45.1%で県平均より6.5ポイント低くなっており、これらの結果から話し合い活動を苦手と感じている児童が多くいることがうかがえる。言語活動において、相手を尊重する態度の育成を図り、相手の考えを最後まで聞くことができる児童を育成したり、児童の様々な考え方を引き出し、思考を深めたりするような発問や指導を工夫したりするなどして、進んで話し合い活動に参加できる児童を育成することが課題である。

宇都宮市立岡本小学校第5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- 9割以上の児童が、学校の宿題は自分のためになっていると感じ、家で宿題をきちんと行っている。
- 「学校の宿題はやりたくなる内容だ」、「家での学習はだいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の設問について、市や県の肯定率に比べやや高い。
- 9割以上の児童が、学校の準備は自分で行い、毎朝朝食を食べている。
- 国語、社会、算数は殆どの児童が将来のために大切だと感じており、理科も9割程度の児童が大切さを感じている。その他の学習も音楽、図工以外は、9割程度が大切だと感じている。(音楽は75.0%、図工は83.3%だが、市や県の肯定率に比べやや高い。)
- 人と話すことは楽しく、時間や約束を守ることは大切だし、社会に役立つような人になりたいと感じている児童が9割以上いる。
- 家で自分で計画を立てて勉強している児童は6割程度で、授業の予習、復習を合わせて行う児童は5割に満たず、難しい問題に出会うとやあきがでたり、本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている児童は4割に満たない。
- 「毎朝、自分で起きている」という設問の肯定率は6割程度で、市や県の肯定率に比べても低めであった。
- 「友だちの前で自分の意見や考えを発表することは得意だ」は3割台、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」、「自分の行動や発言に自信をもっている」は4割台の肯定率であった。
- 「地域社会などで、ボランティア活動に参加したことがある」は4割程度の肯定率であった。
- 歴史上の人物やできごとをあつかったテレビや本、自然科学に関するテレビや本への興味・関心への肯定率は5割台。算数の授業内容を普通の生活に生かすことを考えている児童も5割台であった。

傾向をまとめると、

- ・勉強は将来大切であり、宿題もやらなければいけないものと感じており、与えられればやるが、自ら問題意識を持ち、進んで学ぶ姿勢は身につけていない児童が多い。
- ・将来役に立つ人になりたいと漠然と思っはいるが、経験が足りず強い意欲も持っていないので、自分に自信が持てず自己肯定感が低い。